

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 「ものづくり」教育を通じて、府民に信頼され地域社会に貢献する創造性豊かな職業人を育成する。
1. 知・徳・体・技のバランスのとれた人材の育成に努める。
  2. 生徒一人ひとりの学力を伸ばさせ、実学を通じて将来的な展望を持たせ自己実現できるように努める。
  3. 生徒一人ひとりを大切にし、健康的で人間性豊かなエンジニアの育成に努める。
  4. 地域に信頼される開かれた学校づくりを進める。

## 2 中期的目標

- 1 生徒の基礎学力や専門性を高めるために、教員の授業力の向上を図る
  - (1) 生徒の基礎学力や専門的知識・技能の向上を図り、生徒の自己実現を図る
    - ア 教育産業を活用し、基礎学力の定着を図る。
    - イ 生徒一人ひとりの専門的知識・技能を向上させ、学習意欲を高める。
    - ウ 生徒の自己肯定感や自己有用感の向上のために、実社会において有用な資格の取得を奨励する。
    - エ 再編整備計画に基づいて、「PBL 学習」の構築及びSDGsの視点を踏まえ「総合的な探究の時間」や「課題研究」での各系の特色化を際立たせる取組みを計画的に進める
    - オ 令和4年度リーディングGIGAスクール（ビギナークラス）により普通教室及び選択教室にプロジェクターを設置、また実習棟へのプロジェクターの設置により1人1台端末を活用し効果的に一斉学習、個別学習及び共同学習の教育実践の充実に努める。
    - カ グローバル化や情報化が加速度的に進展する中で、国際的共通語として中心的な語学力（英語）の育成に努める。  
 ※生徒向け学校教育自己診断における「1人1台端末を効果的に活用している」肯定率を令和9年度には80%以上とする。(R6 83%)  
 ※画面共有機能を利用するための電子媒体の教材作成・利用の研修を行い、電子黒板機能を用いて板書中心の授業の電子化を令和8年度には70%とする。  
 ※生徒向け学校教育自己診断における「授業力関連」肯定率を令和9年度には80%以上とする。(R4 75%、R5 79%、R6 79%)  
 ※国家資格取得の合格率を毎年75%以上維持する。(R4 72%、R5 75%、R6 87%)  
 ※英語において語学力を育成する。英語技能検定受験者数を令和9年度には10名以上をめざす。(R4 9名、R5 5名、R6 10名)
  - (2) 同僚性を高め、積極的に教育力の向上に取り組む
    - ア 授業アンケート及び相互の授業見学を通して、授業力の向上をめざす。
    - イ 各系や教科を中心に経験年数の少ない教員等の学習会や技術力向上の研修会を開催し、授業力の向上をめざす。  
 ※教職員向け学校教育自己診断における「評価・改善」肯定率を毎年80%以上維持する。(R4 86%、R5 79%、R6 84%)
- 2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと思える学校
  - (1) キャリア教育の充実に図り、生徒の自己実現を支援する。
    - ア 3年間を通じたキャリア教育を計画的に進め、生徒の自己実現を支援すると共に卒業後3年めの離職率調査を実施する。
    - イ 全教員による面接練習や受験対策講習、小論文指導等を行い進路支援体制の充実に図る。
    - ウ 部活動への入部を奨励し、心身の成長を促す。  
 ※生徒の進路（進学・就職）実現100%を維持する。(R4 100%、R5 100%、R6 100%)  
 ※就職一次内定率を毎年85%以上維持する。(R4 91%、R5 89%、R6 89%)  
 ※部活動入部率を、令和9年度には40%以上にする。(R4 38%、R5 26%、R6 35%)
  - (2) 安全で安心な学校づくりを進める
    - ア 職業人として必要な挨拶の徹底、清掃美化活動に取組み、生徒の規範意識の向上に努める。
    - イ 生徒支援体制や教育相談体制の充実に図り、課題を抱える生徒等への支援を行うために、空き教室の施設・設備を有効活用する。
    - ウ いじめの未然防止や早期発見、生起における対応が組織的に取組めるよう、いじめ防止対策委員会の充実に図る。
    - エ 校内体制を整え、中途退学者の未然防止に組織的に取り組む
    - オ 人権教育推進委員会の充実に図り、計画的な指導計画を実施する。
    - カ 保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底を図り、食物アレルギー等に係る事故防止や熱中症、感染症、食中毒の予防に努める。  
 ※生徒向け学校教育自己診断「清掃関連」の肯定率を令和9年度には、60%をめざす。(R4 50%、R5 63%、R6 64%)  
 ※生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」の肯定率を毎年2%引上げ、令和9年度には、78%をめざす。(R4 70%、R5 79%、R6 80%)  
 ※生徒向け学校教育自己診断「いじめ関連」の肯定率を毎年75%維持する。(R4 78%、R5 84%、R5 81%)  
 ※中途退学者率を令和7年度に向けて2.0%以下とする。(R4 2.6%、R5 2.6%、R6 3.2%)  
 ※生徒向け学校教育自己診断の「人権教育関連」の肯定率を毎年75%以上とする。(R4 77%、R5 79%、R6 78%)
- 3 地域に信頼される開かれた学校づくりを進める
  - ア 地域・企業連携や異校種などの取組みを進め、生徒のコミュニケーションスキルやボランティア精神を養うと共に地域に信頼される教育の充実に図る。
  - イ 学校の教育活動内容等をタイムリーに府民へ情報発信し、学校PRに努める。  
 ※ホームページの閲覧回数を令和9年度に向けて15000回以上とする。(R4 28500回、R5 14000回、R6 15000回)  
 ※体験入学者数、学校説明会参加者数、中学校教員向け説明会の参加者を令和9年度に向けて500人以上とする。(R4 448人、R5 570人、R6 400人)  
 ※保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定率を毎年90%以上とする。(R4 94%、R5 90%、R6 95%)
4. 校務の効率化と働き方改革の推進
  - (1) 教職員の働き方改革の推進
    - ア 自然災害時等の安否確認や緊急事態発生時における連絡網体制の継続し教職員の業務作業軽減のために、ICTを活用した校務の効率化を進める。
    - イ 全校一斉退庁日及び一斉下校日、ノークラブデー（部活動休養日）を明確にし、日々の定時退庁に努め、教職員の一人ひとりの意識改革を推進する。
    - ウ 部活動方針を遵守し、教員の時間外在校等時間を縮減する。  
 ※年間平均時間外在校等時間を30時間以内にする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>3者の評価が一致している点            &lt;工業教育の充実&gt;            工業教育に関する質問項目について、生徒 86.0%、保護者 86.5%という高く評価されているが、教職員 71.9%に留まっている。  <b>【分析】</b>            生徒・保護者共に評価されており次年度以降も新たに導入された実習設備を用いて授業内容の更新等に取り組み、より一層充実を図る。            各系で研修会を企画し資質向上を図る。</p> <p>&lt;手厚い生徒サポート&gt;            教育相談に関する質問項目において、生徒 86.9%、保護者 85.6%という高い評価は、教職員 87.7%という自己評価と一致している。            生徒指導に関する質問項目において、生徒 77.5%、保護者 88.6%という高い評価は、教職員 85.9%という自己評価と一致している。            いじめ対応に関する項目において、生徒 85.8%、保護者 85.6%という高い評価は、教職員 84.2%という自己評価と一致している。  <b>【分析】</b>            いじめ対応及び教育相談体制、生徒指導について、保護者・生徒共に受け入れられ機能している。教員が一丸となり即応体制が取れるように維持していく。</p> <p>&lt;キャリア教育の充実&gt;            キャリア教育に関する質問項目において生徒回答 87.5%及び 84.4%、保護者 91.7%という高い評価は、教職員 86.0%という自己評価と一致している。  <b>【分析】</b>            本校のキャリア教育について、生徒・保護者共に評価されており本校が培った指導が生かされている。生徒、時代に即して指導を改善していく。</p> <p>&lt;情報発信とコミュニケーション&gt;            情報発信に関する項目について、生徒 81.7%、保護者 95.0%及び 98.2%という高い評価は、教職員 80.7%という自己評価と一致している。  <b>【分析】</b>            学校から保護者・生徒への情報提供・伝達が円滑に行われている。次年度以降も継続していく。</p> <p>3者の評価に差が見られる点            &lt;授業の学び方に対する認識&gt;            授業の学び方に関する項目について、教職員 93.0%と高い自己評価をしているが、保護者 71.7%となり昨年度より-4.7低下している。しかし、生徒 78.1%と昨年より 1.6 上昇している。  <b>【分析】</b>            教員・生徒と保護者との乖離は、保護者が実感できる結果に結びついていないことが原因と考えられる。            保護者が直接、授業や発表会等を見る機会を増やしていく。            また、相互授業見学等を通じて教員の授業力を向上させ、生徒自身が「どのように学ぶか」を意識させるカリキュラムマネジメントを並行して進めていく。</p> <p>&lt;施設・設備に対する意識&gt;            生徒回答で唯一、昨年度よりマイナス（昨年度比-2.2ポイント）評価であったのに対し、教職員回答では昨年度比+14.5ポイントと大幅に向上している。  <b>【分析】</b>            教員の評価は、事務室が中心とした校内施設・設備の修繕に積極的取り組んだことを評価している。            しかし、生徒が評価している内容は、教室内のごみ箱の状態、教室内の汚れ、廊下の掲示物等であるため、生徒目線での具体的な環境改善が求められている。            そのため、生徒指導において5Sを基本に教室・実習室の整理・整頓、清掃を奨励する。また、廊下・実施室の変色や剥がれかけている掲示物等について撤去・更新を行う。</p>	<p><b>【第1回】6月20日</b>  <b>【定員割れ対策に関する取組】</b>            ・定員割れ対策として、受験者をどのようなPR活動を通して集めようとしているか。            ⇒在校生の出身中学校を中心に職員が中学校訪問を行うよう、職員会議において学校全体で取り組むよう指示している。また、本年度よりSNSの公式アカウントを開設し、学校情報の発信を行っている。            ・他校では生徒が学校PRを行い、3年連続で定員を超えている。御校でも保護者説明会に生徒を参加させてはどうか。            ⇒本年度より学校説明会に生徒を参加させている。            ・生徒に公式アカウントのSNSによる情報発信をさせてもよいのではないか。            ⇒生徒を大阪府教育庁が実施する「SNS記事作成研修」に参加させる予定である。</p> <p><b>【資格取得に関する状況】</b>            ・電気主任技術者の合格者と比べて、電気工事士の合格者が少ないのはなぜか。            ⇒主な要因として、受験を希望制に変更したこと、さらに系別クラス編成から系にとられないクラス編成へと変更したことにより、クラスの団結力や補習への参加率が低下したことが挙げられる。            ・資格試験を受ける生徒数の推移はどうなっているか。            ⇒正確に把握できていない。資格の全員受験を廃止したため、受験者数は低迷傾向にある。</p> <p><b>【第2回】11月20日</b>  <b>【学校PR】</b>            ・学校特色枠による高校側のメリットは何か。            ⇒特色枠を設けることにより学校の特色や求める生徒を強い方向性をもって提示することができる。本校であれば、学力検査に囚われず、ものづくりがしたい生徒や本校で活躍したい生徒を集めるために枠を設けた。            ・SNSの現状はどのようになっているか            ⇒クラブ活動や学校行事の様子を頻繁に掲載しており、授業や実習の様子についても積極的に発信している。特に実習風景は、中学生にとって見慣れない光景であるため、本校の新しい魅力や発見につながることを期待して掲載している。            ⇒部活動では、SNS担当者がサッカー部顧問を兼任しているため、対外試合や中学校向け練習会などの告知も積極的に行っている。過去には1つの記事が約10万回再生された事例もあり、情報発信の効果が非常に高いことが確認できている。            ⇒B社のSNSのフォロワーは、藤井寺市・大阪市・羽曳野市・八尾市・富田林市の居住者が全体の50%以上を占めています。属性別では、男性の約38%が中学生・高校生であり、女性の約86%が保護者世代に該当している。            これらの結果から、当初想定していたターゲット層に効果的にリーチできており、情報発信が狙い通り「刺さっている」と考えられる。            ・入学希望者には学校に足を運んでほしい実際の授業風景を見てもらえたらもっと希望者も増えるのではないかと。  <b>【組織変更】</b>            ・組織変更の意味、目的は何か。            ⇒首席が分掌長をかねているため、学校全体を俯瞰して観ることが難しい状況にある。教頭業務のサポートや学校全体のフォローアップができるよう分掌長等と兼務をさせない体制に変える。また、国会で決定した主務教諭が設置される予定。主務教諭と首席の業務の違いを明確にすることも含まれている。</p> <p><b>【第3回】2月18日</b>  <b>【資格取得】</b>            ・資格受験させるための動機づけはどのようにしているか。また、受験者を増やすためにどのような広報をしているか。            ⇒授業等をとおして、コンクールや資格について興味・関心が持てるように適宜案内を行っている。また、各資格の担当が案内用のチラシを作成し、各クラスで掲示し広報を行っている。            次年度は、1年生で工業の基礎的な検定である計算技術検定4級を受験させ資格・検定の取組の導入として学習方法や成功体験を感じさせるよう指導を行っていく。            また、今年度までは保護者向けの資格・検定に係る案内を行っていなかったが、締切日や資格内容がわかるように保護者に連絡を行い、保護者からも生徒に対して受験を促していただく。  <b>【学校PR】</b>            ・生徒数が減っているため、企業と連携して生徒の作業着に企業ロゴを入れることでPRにつなげることはできないか。            ⇒作業服に企業ロゴを入れても学校外で着ることがないため企業にメリットが少ない。企業からの寄付は、大阪教育ゆめ基金を活用して本年度、熱中症対策として工科高校に空調服の寄付があった。部活動においては、大阪高等学校体育連盟の規定などがあるためユニホームに企業ロゴを入れるのは難しい。練習用であれば可能であると聞いている。  <b>【生徒状況】</b>            ・1年生で30日以上休む長欠生が多く感じる。何日以上休んだら進級できないのか。            ⇒教科ごとに授業時間数の1/3以上休むと未履修になり進級ができなくなるが、欠席日数だけで進級できないという規定はない。            ・中学校でも不登校生が多くなっている。その生徒の多くは通信制に行く傾向が強いが工科高校に入って、なんとか卒業することはできるか。            ⇒不登校にならないように指導は行うが、不登校になった生徒に対しては、本校も含め大阪府立の学校では、遠隔授業等で対応ができる仕組みがある。ただし、実習科目については、何らかの方法で受けていただく必要はある。中学校で不登校であった生徒も入学しているが卒業している生徒も多い。            ・PTAと生徒と一緒に花壇の植え替え等で協働できる機会があればよい。            ⇒時期が合えばぜひ協働して行っていただきたい。担当者に伝えておく。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 生徒の基礎学力や専門性を高めるために、教員の授業力の向上を図る	<p>(1)</p> <p>ア 教育産業を活用したオンライン学習教材で、普通科目の基礎学力を向上させ、就職、進学に備える。</p> <p>イ ICT 機器を活用した授業づくりの推進を進め学習意欲の向上を図る。</p> <p>ウ 実社会において有用な資格の取得を奨励する。</p> <p>エ SDGsの視点に立った3学年を通じたPBL学習を計画的に推進する。</p> <p>オ・電子黒板機能を用いて板書中心の授業の電子化を首席を中心としたメンバーで推進する。</p> <p>カ 国際的共通語(英語)である語学力育成。</p> <p>(2)</p> <p>ア 教育産業の授業手法を学ぶと共に授業アンケート及び授業参観を通して授業力向上をめざす。</p> <p>イ 経験年数の少ない教員等の学習会や技術力向上の研修会を開催し、授業力の向上をめざす。</p> <p>ウ 生徒の学力定着を保障していく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教育産業の基礎学力調査を実施し普通科科目の学力向上に努める。</p> <p>イ 生徒の興味関心を引き出すためICT機器教材を活用し、バーチャルな世界を体験し興味関心を持たせながら学習意欲を向上させる。</p> <p>ウ 企業等の講師を招聘し有用資格取得の取組みを推進する。</p> <p>エ 企業等と連携を進めSDGsの視点をもつづくりに取り入れたPBL学習及び課題発表を進める。</p> <p>オ リーディングGIGA導入機材での電子黒板機能を用いて板書中心の授業の電子化を推進する。</p> <p>カ 英語検定の実施</p> <p>(2)</p> <p>ア 授業アンケート結果及び授業参観に基づき、改善方策を検討する。</p> <p>イ 系・科を横断した定期的な学習会等や研究授業等を実施し同僚性を養うとともに振返りを行う。</p> <p>ウ 科目担当者同士で授業の進度や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断「普通教科の学力」肯定率75%以上とする。[69%]</p> <p>イ ・職員研修の充実を図り、教員のスキル向上に努め、職員研修の実施3回以上とする。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「ICT機器を活用した授業づくり」肯定率85%以上を維持する[89%]</p> <p>ウ 国家資格取得の合格率75%以上とする。[87%]</p> <p>エ 課題研究発表会の実施</p> <p>オ 生徒向け学校教育自己診断「1人1端末を効果的に活用」80%以上を維持する。[81%]</p> <p>カ 英語検定の受験者数10人以上[10名]</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断「授業力関連」肯定率75%以上とする。[79%]</p> <p>イ 公開研究授業、研修会等の実施7回以上とする。[7回]</p> <p>ウ 教職員向け学校教育自己診断「評価・改善」肯定率80%以上を維持する。[84%]</p>	<p>ア 生徒向け学校自己診断「普通教科の基礎学力」肯定率73.7%となり、目標が達成できなかった。学習支援クラウドサービスの活用や教育課程の改善を行いさらなる向上に努める[△]</p> <p>イ 今年度中の1回を予定している。長年の研修成果もあり教員のスキルは向上している。次年度以降は教員間の授業見学等のOJTによりさらに高めていく。[△]</p> <p>ウ 現時点では国家資格取得の合格率37.4%で目標は未達成である。ただし、本年度より危険物取扱試験を本校で受験できるようにしたため受験者数が大幅増え、合格率の低下になった。次年度からは合格率から延べ受験者数に指標を変更する。[○]</p> <p>エ 課題研究発表会は3系で実施した。次年度以降2年生や学校運営協議会や保護者等が参加できるよう検討する。[○]</p> <p>オ 生徒向け学校自己診断「1人1端末を効果的に活用」肯定率84.8%で目標を達成できた。[○]</p> <p>カ 2級2名受験(1名1次合格)、準2級1名受験1名合格、3級3名受験2名合格 合計6名受験。受験者数は未達であったが、上位級の資格にチャレンジする生徒が増えている。[○]</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断「授業力関」肯定率83.7%で目標を達成できた。次年度以降は教員間の授業見学等のOJTによりさらに高めていく。[◎]</p> <p>イ 初任者研究授業4回、10年経験者研究授業3回、パッケージ研修に係る研究授業3回合計10回実施。[◎]</p> <p>ウ 教職員向け学校教育自己診断「評価・改善」肯定率82.0% [○]</p>

## 府立藤井寺工科高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと思える学校</p>	<p>(1) ア 3年間を通したキャリア教育を計画的に推進し、生徒の自己実現を支援する。また、卒業後3年めの離職率調査を実施する。</p> <p>イ 全教員による面接練習、受験対策講習、小論文指導等を行い、進路支援体制を推進する。</p> <p>ウ 部活動への入部を奨励し、心身の成長を促す。</p> <p>(2) ア 校内清掃美化活動に取り組み、3S活動(整理・整頓・清掃)を推進する。</p> <p>イ 教育相談体制の充実を図り関係機関との連携を進め、様々な課題を抱える生徒の支援を行う。</p> <p>ウ いじめの未然防止及び早期発見、早期対応のための校内体制の充実を図る。</p> <p>エ 校内体制を整え、中途退学者、留年者の減少に努める。</p> <p>オ 人権教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。</p> <p>カ 生徒の健康な身体育成。</p>	<p>(1) ア 外部講師による講演会の開催や専門家を活用したガイダンスを行う。 就労感、職業観の育成を図るために各実習班での企業見学、インターンシップ等の取組みを行う。</p> <p>イ 全教員が進路指導担当であるという意識を醸成し、面接指導等を実施する。</p> <p>ウ 生活指導部(生徒会係)、学年が中心となり文化祭や体育祭等の学校行事を充実させるとともに、部活動への入部を奨励する。</p> <p>(2) ア 分掌、各系を中心に、校内清掃美化活動に取り組み、3S活動の推進を図る。</p> <p>イ 委員会組織から分掌内に教育相談体制を位置づけ学内に相談室の常設を進める。また定期的なケース会議を行い、SC、関係機関と連携を密にし、生徒の支援を行う。</p> <p>ウ 校内常設委員会の充実を図り、年間3回のいじめアンケート調査を実施し、実効性のあるものとする。</p> <p>エ 系、学年、分掌が連携し、中途退学者、留年者の減少に取り組む。</p> <p>オ 人権教育推進委員会では教職員と生徒に対する人権教育計画を策定し、研修等を通して人権感覚の醸成を図る。</p> <p>カ 生徒が安心して安全な学校生活を送り健康維持を実施するために「保健だより」定期定な発行。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断「キャリア教育関連」肯定率85%以上とする。[84%] 職場見学・インターンシップ参加率60%以上とする。[60%]</p> <p>イ 就職一次内定率85%以上を維持する。[89%]</p> <p>ウ 部活動入部率35%以上とする。[35%]</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断「清掃関連」肯定率60%以上とする。[64%]</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定率75%以上を維持する。[80%] 教職員向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定率80%以上とする。[76%]</p> <p>ウ 生徒向け学校教育自己診断「いじめ関連」肯定率80%以上とする。[81%] 教職員向け学校教育自己診断「いじめ関連」肯定率75%以上とする。[78%]</p> <p>エ 中退率2.0%以下を維持する。[3.2%]</p> <p>オ 生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定率80%以上とする。[78%]</p> <p>カ 「保健だより」及び「相談室だより」発行回数10回以上[13回]</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断「キャリア教育関連」肯定率85.9%で目標を達成できた。[○] 参加率は応募前職場見学82.9%、インターンシップ13.9%平均48.4%[△]</p> <p>イ 就職一次内定率81.9%であった。課題の洗い出しを行い、新3年生への指導について改善を行う。[△]</p> <p>ウ 部活動入部率35.3%で目標を達成している。今後もSNSによる広報等を積極的に行い入学時に入部を希望する生徒を増やす。[○]</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断「清掃関連」肯定率61.9%で目標を達成している。工業教育の中で5Sをさらに徹底していく。[○]</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定率84.5%で目標を達成している。[◎] 教職員向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定率82.5%で目標を達成している。[◎] 継続するとともに生徒の見守り体制をブラッシュアップしていく。</p> <p>ウ 生徒向け学校教育自己診断「いじめ関連」肯定率85.8%で目標を達成している。[◎] 教職員向け学校教育自己診断「いじめ関連」肯定率84.2%で目標を達成している。[◎]</p> <p>エ 中退率3.66%(編転学は含まない。)[△]</p> <p>オ 生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定率85.9%で目標を達成している。[◎]</p> <p>カ 「保健だより」及び「相談室だより」発行回数11回で目標を達成している。[○]</p>
--	--	---	--	---

## 府立藤井寺工科高等学校

3 地域に信頼される開かれた学校づくりを進める	<p>(1) ア 首席を中心とし地域連携などの取組みを進め、地域に信頼される教育の充実を図る。</p> <p>イ 学校の教育活動内容等をタイムリーに府民へ情報発信し、学校PRに努める。</p>	<p>(1) ア 地域イベントへの参加、出前授業など地域の貢献に努め、生徒のコミュニケーションスキルやボランティア精神を養う。また、異校種との連携を進める。</p> <p>イ ホームページを活用して、タイムリーな情報発信に努める。</p> <p>中高連絡会、生徒による中学校訪問等による学校PR</p> <p>本校での学校説明会、体験入学などを行い、学校のPRに努める。</p>	<p>(1) ア ものづくりワークショップや出前授業・異校種連携の回数7回以上 [9回]</p> <p>イ ホームページ閲覧アクセス回数を15000回以上 [15000回]</p> <p>教職員と生徒による中学校訪問件数合計70件以上とする。 [60件]</p> <p>学校説明会・体験入学の参加人数・中学校教員対象の説明会の参加人数合計延べ500名以上とする。 [400名]</p> <p>保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定率90%以上を維持する。 [95%]</p>	<p>ものづくりワークショップ(3回)、出前授業(7回)、異校種連携(7回)合計17回実施した。工業教育についてさらに啓発していく。 [◎]</p> <p>ホームページ閲覧アクセス回数は、約10,000回となった。2種類のSNSにより発信している。A社のSNSでは159投稿、B社のSNSでは199投稿を行った。本校SNS(月間最高閲覧回数15万回(平均5.5万回))の影響によりホームページ閲覧アクセス数が大幅に減ったと考えられる。 [○]</p> <p>教員による中学校訪問件数は90校行った。伝える内容の重点項目を持ちながら効率的に行う。 [◎]</p> <p>学校説明会・体験入学の参加人数・中学校教員対象の説明会の参加人数合計延べ519名であった。当初予定より2回多く実施した。次年度は実施回数、実施方法の見直しを行う。 [◎]</p> <p>保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定率91.1%で目標を達成している。 [○]</p>
4 校務の効率化と働き方改革	<p>(1) ア ICTを活用した校務の効率化の推進</p> <p>イ 全校一斉退庁日及び一斉下校日、ノークラブデーを明確にし取り組む。 また学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化し、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。</p> <p>ウ 部活動方針の遵守による教員の時間外在校等時間の縮減</p>	<p>(1) ア 教職員の業務作業軽減のため、ICT機器を有効活用し、校務のペーパーレス化を図る。</p> <p>イ 全校一斉退庁日を設定し、長時間勤務の縮減に努める。また生徒・教職員へ衛生管理徹底の放送。職員会議でのサービス管理の周知。</p> <p>ウ 部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、適正な指導・運営に係る体制の構築を行うことで、教職員の時間外在校等時間の縮減を図る。</p>	<p>(1) ア 職員会議等の資料を電子化し、PCで閲覧可能にする。また、チャットツール等を活用し教職員間の連絡の迅速化を推進する。</p> <p>イ 全校一斉退庁日及び全校一斉下校日を水曜日に設定する。</p> <p>時間外勤務月80時間以上の職員をなくす。 [3人]</p> <p>ウ 年間平均時間外在校等時間30時間以内。 年間時間外在校等時間720時間以上の職員をなくす。</p>	<p>ア 職員会議等の資料について電子化がほぼできている。Web会議システムのチャットツールを活用して頻繁に情報共有を行っている。 [◎]</p> <p>イ 全校一斉退庁日及び全校一斉下校日を水曜日に設定し周知・声掛けに努めた。 [○]</p> <p>時間外勤務月80時間以上の職員数は1名となり、前年度より改善されている。 [◎]</p> <p>ウ 年間平均時間外在校等時間22.7時間で目標を達成している。 [◎] 年間時間外在校等時間720時間以上の職員はいない。 [◎]</p>